

2010年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500hPa 高度場を見ると、正偏差と負偏差が波列状に分布し、グリーンランド、ロシア西部、東シベリア付近でリッジが発達した。日本の東海上から本州付近は、負偏差となった。偏西風ジェットは全般に平年より強く、日本付近では平年と比べて南寄りだった。日本付近の移動性高低気圧の活動は、3～4月は平年よりかなり活発だったが、5月は平年並となった。対流圏下層の気温は、上空でリッジの発達した場所で高温偏差が顕著となった。日本付近は、弱い低温偏差だった。対流圏の気温は、昨年夏以降、熱帯域を中心に平年より高い状態が続いており、全球平均した値は、1979年以降の5月としては、歴代1位の高温だった。

熱帯の対流活動は、インド洋西部、インドネシア付近で平年より活発となった。一方、インドシナ半島からフィリピン付近では不活発だった。赤道季節内振動(MJO)は、インド洋付近から南米北部にかけて東進した。太平洋赤道付近の対流圏下層の偏東風は、西部から中部にかけて平年より強かった。北太平洋の亜熱帯高気圧は、フィリピン付近と東部で平年より強かつ

た。南方振動指数(SOI)は+0.9だった。

世界の天候

2010年5月の世界の月平均気温年差は+0.36°Cで、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.66°C/100年である。主な異常天候発生域は次のとおり。

○30°S～30°Nの低緯度域では、広く異常高温となった。

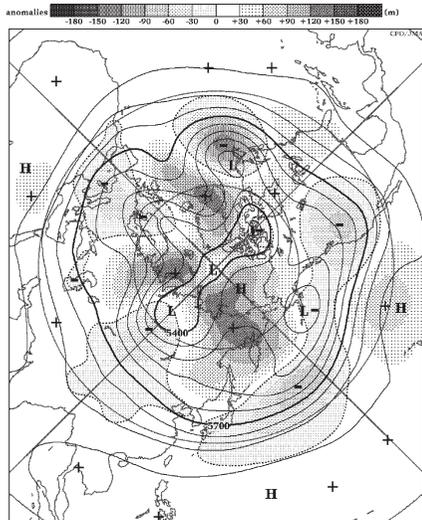
○東シベリア～グリーンランドでは、異常高温となった。

○ヨーロッパ東部～中部では、低気圧や前線の影響を受けやすく、異常多雨となった。

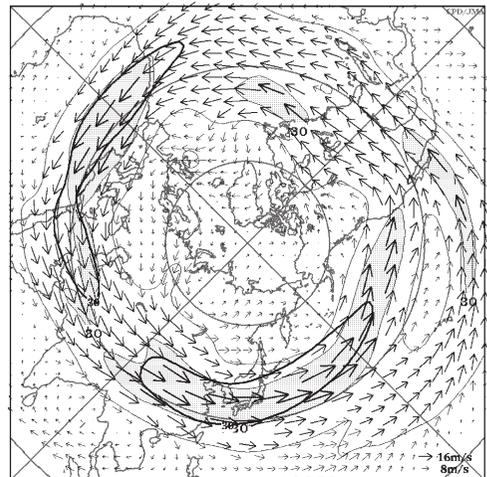
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

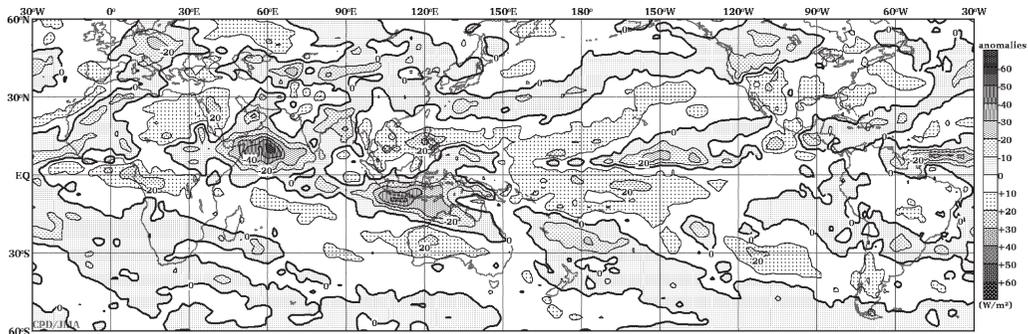
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



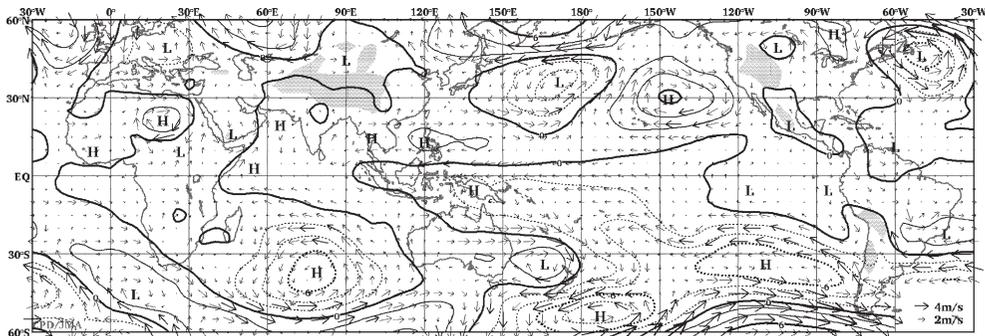
2010年5月の北半球月平均500hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は1979～2004年のデータから作成。



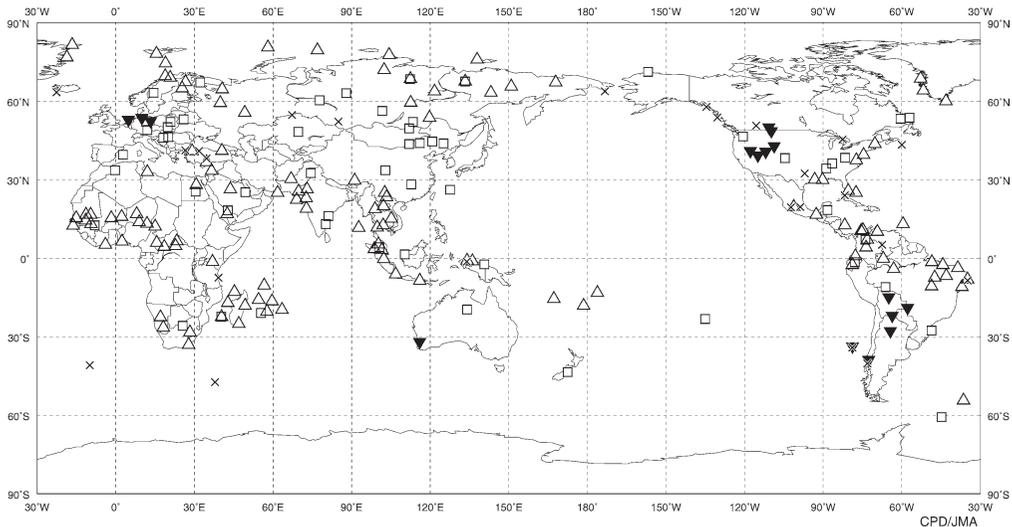
2010年5月の北半球月平均200hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15m/s。陰影部は30m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30m/s以上の領域を示す。平年値は1979～2004年のデータから作成。



2010年5月の月平均外向き長波放射量平年偏差
 等値線間隔は10W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2010年5月の月平均850hPa 流線関数平年偏差および風平年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~2004年のデータから作成。



2010年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。